

第 29 回 猪名川自然環境委員会 議事要旨

1. 日 時 令和 2 年 2 月 6 日（木）10:00～12:00
2. 場 所 公益社団法人 国民會館 武藤記念ホール 小ホール
3. 出席者 委員：川崎委員（欠席）、菅原委員（欠席）、竹門委員、田中委員、服部委員、松井委員、村上委員、森下委員（委員長）
猪名川河川事務所：井樋所長、幅岸副所長
（工務課）志鹿総括保全対策官、渡部工務課指導官
川西専門職、新地維持係長、衣斐管理第二係長、尾楠保全対策官
庶務：いであ株式会社 兵藤、佐中、石垣、井上、平下
4. 議 事 (1) 令和元年度工事箇所環境面からの評価
(2) 河原環境の再生の評価
(3) 河川縦断方向の連続性回復に関する取り組みの結果
(4) 河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項（案）
(5) その他

5. 結 果

(1) 令和元年度工事箇所環境面からの評価

(工事箇所環境配慮)

- 工事においては、現存する生物が工事によって阻害されない程度の配慮ができれば良いと考えている。本当の重要種や希少種に対する配慮とは問題が異なるので冷静に考える必要がある。
- 環境目標に対して工事がどの程度貢献できるのか、又は目標に対して損なう部分があればどのように配慮するのかを考えることが重要である。現存する生物等を守るというものではなく、より計画的な環境管理を考えていく必要がある。工事はそのための良い機会になりうる。

(ヒメボタル生息箇所への配慮)

- ヒメボタルについては、幼虫調査や産卵環境等の生活史に応じた状況を把握し、オカチョウジガイ（陸産貝類）等の周辺の環境と合わせてモニタリングを行っていくことが重要である。

(2) 河原環境の再生の評価

(北伊丹地区の評価結果)

- 北伊丹地区では、施工当初は河道の変化が少なく効果が見られなかったが、洪水による攪乱により、当初に作った仕掛けが機能して効果が得られたと考えられる。
- 河原環境が再生されたのは、再生工事箇所の土砂が移動しただけではなく、上流から土砂が移動してきたことも重要である。河川環境の全体の目標に対して良い結果となっているが、再生工事との因果関係は明らかではない。河原環境が維持された要因を把握することは、今後の工事等の

場所を選定する上で重要となる。

(外来種の減少による河川環境の回復)

- 期待した攪乱が生じることで、外来種が減少して在来種が増加し、河川環境が回復したという結果は重要であるが、その観点が不足している。

(3) 河川縦断方向の連続性回復に関する取り組みの結果

(評価における情報の追加)

- 平成 30 年と令和元年において、加茂井堰でアユの蝸集・遡上状況を確認したことで加茂井堰まで遡上できたと評価しているが、放流アユの時期や場所との関係と合わせて示した方がよい。
- アユの遡上は各年の気象条件の影響を受けるため、調査年とその前後の環境条件についても記載する必要がある。

(生息するアユの履歴の把握)

- 可能であれば、アユが下流域から遡上したのか、上流域で放流したものが生息しているのか、履歴を把握できると良い。耳石を調べると判別できると考えられる。

(河原環境の再生と魚類の生息環境の関係)

- 河原環境の再生が環境目標となっているが、河原環境により瀬・淵が創出され、良好な瀬をアユ等の魚類が生息・生育・繁殖環境として活用するため、これらの関係性を合わせて記載することがよい。

(地域連携による産卵場作り)

- 藻川・中園橋のアユ産卵床造成について、地域連携による取り組みであることや、実施主体名を記載した方がよい。

(4) 河川水辺の国勢調査を行う上での猪名川における補足事項（案）

(猪名川の河川環境の特徴)

- 猪名川は、瀬・淵の環境や感潮域・汽水域の環境が重要であり、記載して頂きたい。また、人との関わり合いが深いことが特徴的である。
- 横断連続性の分断の課題は、他の河川と比較して川幅に対する高水敷の割合が大きいことであり明記する必要がある。

(河川水辺の国勢調査のアドバイザーと猪名川自然環境委員会委員との関係)

- 河川水辺の国勢調査のアドバイザーと猪名川自然環境委員会の委員は一致している方がよい。

(補足事項（案）の取り扱い)

- 現状の補足事項（案）は暫定版とし、対象となる分類群の河川水辺の国勢調査を実施する前年度に、該当する補足事項について、事前に検討して具体化した上で、当該年度の河川水辺の国勢調査に活用していくことが良い。

(流程毎の生物の分布状況)

- 別の資料において、流程毎に汽水性、回遊性、止水・緩流における生物の分布状況を示したリストがあるが、この情報を河川水辺の国勢調査でも継承し、連続性が担保されているかどうかの評価に繋げて頂きたい。

以上